

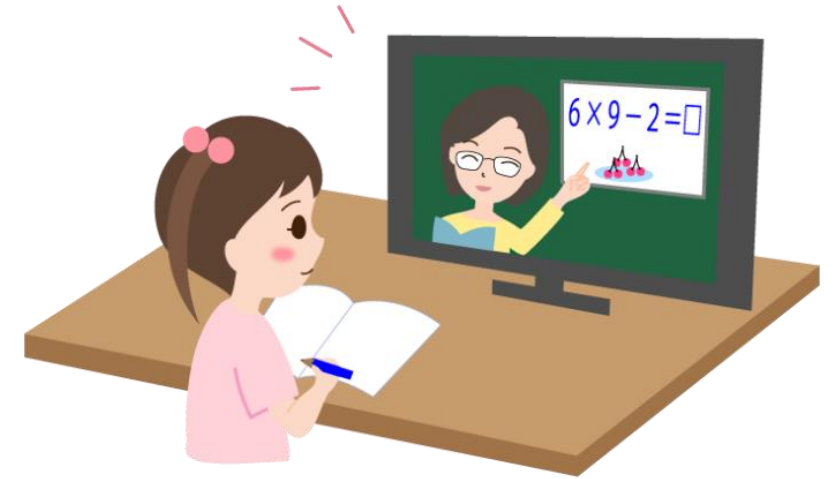
港防災センター 防災教育プログラム

令和2年度から新学習指導要領が全面実施され、小学校で防災教育の授業が充実されました。名古屋市港防災センターでは小・中学校の児童生徒および教員の皆様に、校外学習や防災学習のツールとしてご利用いただけるよう、様々なコンテンツを準備しております。

●名古屋市港防災センターを利用した学習のメリット

- ・施設使用料は無料です。
- ・「見る」「聞く」を通して楽しく防災の学習ができます。
- ・防災の専門家が監修・実施をします。

※元小学校教員・JICA防災専門家・防災教育アドバイザー、港防災センター長・防災士



対 象：主に小学校4年生以上（他学年も対応可）

- 🌸 防災トークまたはワークショップ（ぼうさい教室） ※オンライン、出前講座可能です。
- 🌸 防災学習のための授業のカリキュラム相談
- 🌸 各種コンテンツ（パネル、DVDなど貸出可能です。）
- 🌸 体験学習（1団体10名以上、最大120名程度まで）

校外学習 コンテンツプラン

<体験学習> 要申し込み。滞在時間90分～120分程度（特別講座、自由見学時間を含みます）

地震体験

地震体験機を使用して、日本全国で過去に起こった震度7の地震の揺れと、地震の後に取るべき行動について体験します。



所要時間 20分
同時体験可能人数
1回につき7人まで
例) 6～7名×5回=30名程度体験可

伊勢湾台風展示室

伊勢湾台風に関する説明パネルや写真、体験談を収録した映像を展示しています。自由見学・スタッフによる講座とも可能です。



所要時間 10分/回
同時体験可能人数 30名程度

3Dシアター

昭和34年、伊勢湾台風当時の家屋を再現した部屋で、伊勢湾台風当夜の様子や、被災の様子を映像で学びます。また、南海トラフ巨大地震の被害想定についても映像で見ることができます。



所要時間 10分/回
同時体験可能人数 30名程度

煙避難体験

煙避難体験室を使用して、火災時の煙の怖さと適切な避難行動（お・は・し・も）について学びます。



所要時間 20分
同時体験可能人数
1回につき7名まで
例) 6～7名×5回=30名程度体験可

学 べ る 内 容

指導要領との関連

- ・過去県内で発生した地震（4年生社会）
- ・災害の種類や発生場所、時期、防災対策など（5年生社会）
- ・災害に関する基礎的理解（6年生理科）
- ・けがの防止（5・6年生保健）
- ・地震災害（中学1年理科）

なごやっ子防災ノートとの関連

- ・もしもしんがおこったら（小学4年～6年生用P5～P7）
- ・あっ、地震だ!!（中学生用P3～P5）

指導要領との関連

- ・過去県内で発生した風水害（4年生社会）
- ・防災情報の大切さ（4年生社会）
- ・国民生活を守るために国や県が進めている対策（4・5年生社会）
- ・災害の種類や発生場所、時期、防災対策など（5年生社会）
- ・気象情報、台風と降雨の関係、台風の進路、自然災害（5年生理科）
- ・災害に関する基礎的理解（6年生理科）
- ・前線の通過と天気、気象災害（中学2年理科）

なごやっ子防災ノートとの関連

- ・風水害について知ろう（小学4年～6年生用P11）
- ・風水害について知ろう・考えよう（中学生用P11～P12）

指導要領との関連

- ・火事への備え、消防署（3年生社会）
- ・燃焼の仕組み（6年生理科）

なごやっ子防災ノートとの関連

- ・火災から避難する時は・・・（小学4年～6年生P8）
- ・火災から避難するときは（中学生用P7）

校外学習 コンテンツプラン

<授業型 (ぼうさいトーク)> ※センター内：講習室10名以上、センター外：出前講座20名～会場に応じて
所要時間：30分程度 オンライン、出前講座はご相談に応じます。

自分たちにできること

「防災教育アドバイザーの特別授業」
(※スケジュールによりご案内
できない場合もあります)

- ・ぼうさいマップを作ろう
- ・避難生活のための備え
- ・いざという時に 小・中
学生としてできること



<3～6年 道徳> みんなのために働く
<中学生保健体育> 自分たちにできること

過去に愛知県を襲った災害

「風水害版」・・・伊勢湾台風 東海豪雨
「地震版」・・・濃尾地震 東南海地震 三河地震

- ・過去愛知県等で発生した災害
- ・被害が大きくなった原因と対策
- ・過去の災害を学び、私たちが
できることはなにか



<4年生社会> 過去県内で発生した風水害
<5年生社会> 災害の種類や発生場所、
防災対策など

公助・共助 ～関係機関と地域の役割～

「災害からくらしを守るために、だれが
どのようなはたらきをしているのかな？」

- ・防災情報の発信や避難体制の確保、
- ・関係機関との連携・地域団体の活動例の紹介

<4年生社会> 自然災害から
人々を守る活動
<5年生社会> 我が国の国
土の自然環境と国民生活
の関連
<6年生社会> 自然災害から
の復旧や復興



地震・津波

「地震の国で生き残れ！」

- ・地震や津波のメカニズム
- ・南海トラフ巨大地震とは
- ・身の守り方をクイズ形式
で学ぶ



<4年生社会> 日ごろから必要な備え
<5年生社会> 災害の種類や発生場所、
防災対策など
<6年生理科> 土地のつくりと変化

土地の成り立ちと災害リスク

「土地の成り立ちから学ぶ名古屋の災害」

- ・名古屋の土地の成り立ち
- ・どういう災害に弱い？

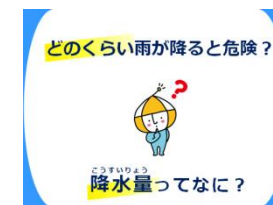
<4年生社会>
過去県内で発生した風水害
自然災害から暮らしを守る
<6年生理科>
土地のつくりと変化



ハザードマップと防災情報

「ハザードマップについて学ぼう」
「防災情報について学ぼう」

- ・ハザードマップの見方
- ・気象注意報・警報など
の防災情報の知識



<4年生理科> 雨水の行方と地面の変化
<5年生理科> 天気の変化
<6年生理科> 土地のつくりと変化
<中学2年理科> 前線の通過と天気、気象災害

校外学習 コンテンツプラン

<ワークショップ（各20分程度）10名以上。※館内での体験となりますが、出前講座ご希望の場合はお問合せください。>

新聞スリッパ

足を守るためや衛生を保つため避難所生活に必要なスリッパを身近な物（新聞紙）で作ります。

ケガの防止 危険の
予測や回避
(5・6年生保健)

傷害の防止
災害による傷病
(中学生保健)



紙食器

断水時にお皿など洗い物用の水を使わずに食事ができる、紙食器を身近な物（チラシ）で作ります。

なごやっ子防災ノートとの
関連

- ・考えてみよう
- ・話し合ってみよう
(小学4年～6年生P17)
- ・協力する・工夫する
(中学生用P16～17)



アルミカップでキャンドル

停電時に、ご家庭にあるアルミカップと食用油、ティッシュなどを使って明かり(安全灯)を作ります。※実際に灯はつけません。

自分でできることは
自分でする (3・4年生道徳)

日ごろから必要な備え
(4年生社会)

快適な住まい方
(5・6年生家庭科)



牛乳パックでホイッスル

非常時の連絡手段である笛を、牛乳パックで簡単なおもちゃとして作ります。

自分でできることは
自分でする (3・4年生道徳)

日ごろから必要な備え
(4年生社会)



キッチンペーパーでマスクをつくろう

災害時に便利なマスクを、身近な物（キッチンペーパー）で作ります。

ケガの防止 危険の
予測や回避
(5・6年生保健)

傷害の防止
災害による傷病
(中学生保健)



校外学習 コンテンツプラン

<選択コンテンツ①～③のいずれかの選択となります。>体験学習+選択コンテンツの時間選択可能です。※要相談

①ワークショップ

身の回りにあるもので災害時に役に立つグッズ作りを行います。

内容はこちら



体験可能人数 10名以上
所要時間 20分/回

②ぼうさいトーク

防災・災害に関するお話を授業形式で行います

内容・テーマはこちら



体験可能人数 10名以上
所要時間 30分/回

③自由見学

<展示物>

- ・家具の固定
- ・非常持出品、備蓄品
- ・AEDの使い方(映像)
- ・119番通報体験(パネル)
- ・ハザードマップ
- ・1F地震を知るコーナー
- ・企画展展示パネル等



所要時間 10～20分/回

学 べ る 内 容

指導要領との関連

- ・自分でできることは自分で (3・4年生道徳)
- ・日ごろから必要な備え (4年生社会)
- ・季節の変化に合わせた住まい方 (5・6年生家庭)

なごやっ子防災ノートとの関連

- ・考えてみよう・話し合ってみよう (小学4年～6年生用P17)
- ・協力する・工夫する (中学生用P16～17)

指導要領との関連

- ・みんなのために働く (3～6年生道徳)
- ・自然災害は国土の自然条件などに関連して発生している (5年生社会)
- ・季節の変化に合わせた住まい方 (5・6年生家庭)

なごやっ子防災ノートとの関連

- ・くりかえし起こる地しん (小学4年生～6年生 P1)
- ・地しんのあとに起こること (小学4年生～6年生 P8～P9) (中学生用 P6)
- ・家のまわりを見てみよう (小学4年～6年生用 P13～P14) (中学生用P9～P10)
- ・考えてみよう・話し合ってみよう (小学4年～6年生用 P17) (中学生用P14～P17)

指導要領との関連

- ・日ごろから必要な備えなど、自分たちでできること (4年生社会 中学生保健体育・家庭他)

なごやっ子防災ノートとの関連

- ・家族で話し合ってみよう (小学4年～6年生用 P10P12P15P16) (中学生用 P8P12P13P25)

指導要領との関連

- ・災害時から人々を守る活動をしている人たちの働きや取り組み (4・5・6年生社会)
- ・自然災害による傷害 (中学生保健体育)

なごやっ子防災ノートとの関連

- ・考えてみよう・話し合ってみよう (小学4年～6年生用 P17)

校外学習 モデルコース

10名から最大で120名程度まで 内容により90分～120分程度の滞在で体験が可能です。

20分 地震体験

地震体験機を使用して、日本全国で過去に起こった震度7の地震の揺れと、地震の後に取るべき行動について体験します。

所要時間 20分
同時体験可能人数
1回につき7人まで
例) 6名×5回=30名程度体験可

伊勢湾台風展示室

伊勢湾台風に関する説明パネルや写真、体験談を収録した映像を展示しています。自由見学・スタッフによる講座ともに可能です。

スタッフによる講座
所要時間 10分/回
同時体験可能人数 30名程度

20分

3Dシアター

昭和34年、伊勢湾台風当時の家屋を再現した部屋で、伊勢湾台風当夜の様子や、高潮が迫る様子、被災の様子を映像で学びます。

※南海トラフ巨大地震の津波被害想定を選択することも可能です。

所要時間 10分/回
同時体験可能人数 30名程度

20分

煙避難体験

煙体験ルームを使用して、火災時の煙の怖さと適切な避難行動（お・は・し・も）について体験します。

所要時間 20分
同時体験可能人数
1回につき10人程度まで
例) 6～7名×5回=30名程度体験可

20～40分

特別講座 ワークショップまたは防災トーク ※希望の場合のみいずれか選択)

防災トーク 30分/回
防災・災害に関するお話を授業形式で行います
体験可能人数 10名以上
※予約状況により20分～40分と変更あり。

ワークショップ 20分/回
身の回りにあるもので災害時に役に立つグッズ作りを行います。
体験可能人数 10名以上

20～30分

自由見学

- ・家具の固定
- ・非常持出品、備蓄品
- ・AEDの使い方(映像)
- ・119番通報体験

- ・ハザードマップ
- ・1F地震を知るコーナー
- ・企画展展示パネル等
- ・消防ヘリコプター
- ・ミニはしご車、ミニポンプ車
- ・消防服
- ・図書室

校外学習 防災体験予約（団体）について

防災体験ツアーの流れ

学校団体様の受け入れ

最少10名～120名程度

所要時間 90分～120分程度

※時間、人数などご相談に応じます。事前にお電話ください。

体験予約後、もしくは体験案内中に、自由見学時間を設けます。

各種展示などを使用して、学びの時間としていただきます。

お申込み

申込書④（小中学校団体）の用紙に必要事項をご記入の上メールかFAXで送信してください。

体験プログラムの例

所要時間と定員数		20分	20分	20分	20分	20分	20分	
体験のみ 60分～80分 90名程度まで	上限3班	1班(10～30名程度)	地震体験	伊勢湾台風体験	煙避難体験	自由見学	出発	
		2班(10～30名程度)	伊勢湾台風体験	煙避難体験	地震体験			
		3班(10～30名程度)	煙避難体験	地震体験	伊勢湾台風体験			
体験のみ 80分～90分 10名以上120名程度まで	上限4班	1班(10～30名程度)	地震体験	伊勢湾台風体験	煙避難体験	自由時間	出発	
		2班(10～30名程度)	伊勢湾台風体験	煙避難体験	自由時間	地震体験		
		3班(10～30名程度)	煙避難体験	自由時間	地震体験	伊勢湾台風体験		
		4班(10～30名程度)	自由時間	地震体験	伊勢湾台風体験	煙避難体験		
体験とトークか、 体験とワークショップ 120分 10名以上120名程度まで※(1)	上限4班	1班(10～30名程度)	地震体験	伊勢湾台風体験	煙避難体験	防災トークかワークショップ(20～30分)		自由時間
		2班(10～30名程度)	伊勢湾台風体験	煙避難体験	地震体験			
		3班(10～30名程度)	防災トークかワークショップ(20分～30分)		自由時間	地震体験	伊勢湾台風体験	煙避難体験
		4班(10～30名程度)				伊勢湾台風体験	煙避難体験	地震体験

体験・ワークショップ・トークの順番は状況により変わることがあります。

※(1) 120名以上の場合、別途ご相談に応じます。

防災学習のための各種コンテンツ

各種、参考貸出、当日閲覧・上映可能です。

※いずれも他のご予約等の状況により、応相談となります。

○パネル閲覧、（貸し出し可）

過去愛知県内で起きた災害についての説明パネルをはじめ、災害が起きた場合の被害予測について、防災に関するマーク、トイレ問題など、学校での防災イベントなどでも使用していただけるパネルをご用意しております。

○DVD上映、（貸し出し可）

地震や風水害についての啓発DVDをご用意しております。

※「津波から逃げる（気象庁17分）」のみ希望者に配布可（なくなり次第終了 1校1枚に限る）

○伊勢湾台風カルタ（ダウンロードできます）

カルタ遊びをとおして、過去愛知県に甚大な被害をもたらした「伊勢湾台風」について学んでいただけます。

○CD（貸し出し可） ※希望者に配布可（なくなり次第終了 1校1枚に限る）

地震・津波防災ソング「い・つ・も」「お・か・に」

防災教育アドバイザー近藤ひろ子先生（名古屋市港防災センター顧問）作成。

地震や津波から身を守る方法を、やさしい言葉と歌で学べます。

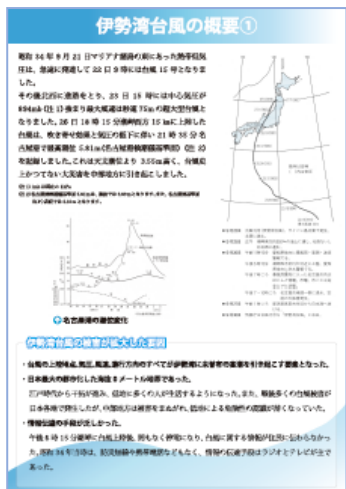


伊勢湾台風カルタ



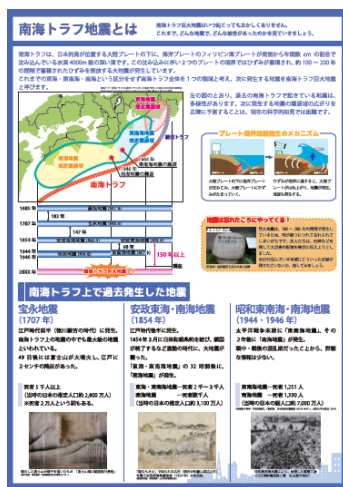
いつも・おかに
(CD)

防災学習のための各種コンテンツ（パネル）



伊勢湾台風
5枚組

昭和34年の伊勢湾台風の概要と名古屋市内の被害、被害が拡大した要因について解説



地震を知る
4枚組

南海トラフとは・津波とは・液状化とは、写真や図を用いて解説



熊本地震
6枚組

平成28年熊本地震の概要と名古屋市の支援活動内容について解説



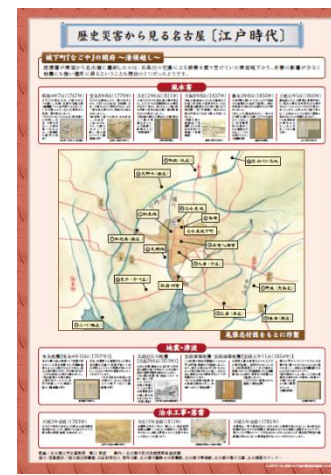
トイレとぼうさい展 7枚組

災害時トイレがつかえなくなったら？流さないトイレやその方法などを解説



防災マーク
4枚組

身近なところでよく見かける防災マークについて解説



歴史災害から見る名古屋
4枚組

名古屋の土地の成り立ちと過去に起こった災害についての説明

防災学習のための各種コンテンツ（DVD）



津波からにげる
（気象庁 17分）

津波から命を守るために①迅速かつ自主的に避難②津波の正しい知識③日ごろから備えることの大切さ、を実話をもとにしたアニメーションで構成



防災ナマズンの地震は必ずやってくる
（愛知県 20分）

地震は必ずやってくるという認識と、身を守るための基本的な知識を子供たちにわかりやすく理解できるようにアニメーションで構成



伊勢湾台風から半世紀 知ろう風水害 考えよう防災（愛知県 4パート計34分）

風水害に関する知識を「知る」、伊勢湾台風の教訓を「学ぶ」、家庭での防災・減災対策を「学ぶ」3部構成 資料映像として、当時の愛知県政ニュースも別収録あり。



急な大雨・雷・竜巻から身を守ろう！
（気象庁 被害編+解決編計18分）

被害編（6分）で、なぜ子どもたちは危険な目にあってしまったのかを考え、解説編（12分）で、どうすれば身を守れるのかを学ぶ。



南海トラフ巨大地震（名古屋市消防局 23分）

平成25年度末に名古屋市が公表した南海トラフ巨大地震の被害想定を映像化したものなごや動画館「まるはっちゅーぶ」でもご覧いただけます。

<https://www.youtube.com/watch?v=lnQV1CydWS8&feature=youtu.be>

校外学習 体験ツアー（小グループ）について

中学生向け

調べ学習
職場体験学習
(10名以下)
滞在時間約90分

市営地下鉄港区役所駅から徒歩3分。名古屋市内他公共施設へのアクセスも良好です。

名古屋港水族館まで約15分（市営地下鉄名港線で2駅 「港区役所」 駅→「名古屋港」 駅）

名古屋市科学館まで約25分（市営地下鉄名城線「港区役所」 駅→「栄」 駅→東山線「伏見」 駅）

調べ学習でお越しになる生徒さん

職場体験学習として、港防災センターのお仕事の質問に来られる生徒さん

★来館時期が重なるため、生徒さんの質疑応答希望の場合、1学校あたり5問までの質問をFAXかメールで事前に送付をお願いいたします。

次ページ以降に生徒さんの「よくある質問」を記載しています。

記載以外の質問をお願いいたします。

教職員の方のよくある質問は最終ページにあります。

10名以下であっても来館予定確認のため防災体験予約申込書をお出しく下さい。

各種体験は、防災体験予約（10名以上）が優先になります。

体験ができない時間帯もあります。

他校と合同で案内することがあります。

職場体験学習の生徒さん向けよくある質問（1）

まずは学校で調べ学習をお願いします。調べたうえでどうしても分からないこと、聞きたいことなどを1校あたり5問まで、事前にFAXやメールでお送りください。

よくある質問をいくつかご紹介しますので、下記以外のご質問をお願いします。

Q1 1日何人の人が来ますか。

A1 年間で約6万人の方が来館されます。

Q2 なぜこのセンターが建てられたのですか。

A2 昭和51年の国土庁から発表された「地区防災基地構想」に基づき昭和57年に開館しました。港区は過去の災害事例、地盤強度から最も災害危険度が高いとされたことや、伊勢湾台風の被害について後世に伝えるためにふさわしい地として選ばれました。

Q3 ここのキャラクター「ソナ エル」は誰が考えたのですか。

A3 当センターのデザイナースタッフが考案致しました。

Q4 キャラクターの名前の由来は？

A4 「ソナ・エル」は災害に「備える」から、「ミナトウ」は港区の防災無線塔から、「ユラ」は地震を起こすといわれる「ナマズ」からついた名前です。

Q5 ここで働いている人の主な仕事は何ですか。

A5 ここでは色々な災害体験をして頂くことで実際に災害が発生した時にどのような行動をとるべきか、また、事前にどのようなことを準備しておくべきか、何を学んでおくのかを考えて貰うきっかけを作っていただくところです。そのためにスタッフは「災害体験ツアー」のご案内をしたり、イベントを実施したり、色々な展示を企画したりして来場された皆さんに見学してもらっています。

職場体験学習の生徒さん向けよくある質問（2）

Q6 ここで働いている人は他の仕事もしているのですか。災害が起きた時はどんな活動をするのですか。

A6 イベントを行う場合の事前準備や作製、予約を受けたり入力したりの対応、多くの人に来ていただくために広報や宣伝をしています。なお、災害が起きた時の救援活動はしていません。港防災センターが一時避難場所になるかもしれませんが、基本的にセンタースタッフが活動をすることはありません。

Q7 この仕事をするうえで大切なことや気を付けていることはありますか。

A7 この仕事に限らずどんな場合でもそうだと思いますが、真心を持って、お客様と接することが大事だと思っています。

Q8 展示の乗り物の費用はどれくらいしますか。

A8 センターに展示しているヘリコプターは、過去実際に名古屋市消防局で活躍していたヘリコプターを展示用にしたものです。もともとの価格は、昭和56年頃の導入時ですと4億位だと思います。はしご車、ポンプ車は消防職員が手作りしたもので、販売されていたものを購入したわけではありませんので算定不能です。

Q9 地震を体験する機械はいくらぐらいしますか。

A9 算定不能です。これは世間にたくさん出回るものではなく手作りの様に1台を作り上げていくため相当高くなります。

Q10 中学生の自分たちに何かアドバイスをして頂くことはありますか。

A10 皆さんは災害にあった時どうしますか。災害の種類やお家にいる時、学校にいる時、外へ遊びに行っている時等色々な状況が考えられますが、災害にあった時の基本はまず自分の身を守ることです。身の守り方は火災の時、洪水の時、地震の時、津波の時等種別や状況によっていろいろ変わってきます。港防災センターでぜひ勉強して見てください。

教職員の方向けよくある質問

下記以外のご質問はお電話にてお問い合わせください（電話 052-651-1100）

Q昼食場所がありますか？

A館内は飲食禁止です。（水分補給のみ許可しております。持ち込みは水筒などのふたの付いた容器に限ります）

Q料金はかかりますか？

A無料です。

Q駐車場がありますか？

Aありません。施設前（名古屋市港区役所前）の側道で、バスの乗降時のみ一時停車可能です。

Qコインロッカーがありますか？

Aありません。お荷物の預かりもお断りしております。

Q分散学習でも引率者は必要ですか？

A不要です。生徒さんは入館後、学校名を受付でお伝えください。

Q分散学習のため、ばらばらの到着でもいいですか？

A可能ですが、各種体験は他の団体との調整により体験できない場合もございます。

Q分散学習のため、4～5名ですが予約は必要ですか？

A来館時期が集中するため、少数でも必ずご予約ください。

Q生徒からの質疑応答の時間はとれますか？

A当日の予約状況によりますので、原則、事前に質問事項をご送付ください。1団体につき、5問までお受けします。

Q館内での写真撮影は可能ですか？

A一部不可のものもありますがおおむね可能です。他のお客様が映り込まないようにご配慮ください。